

国内初の無線電信局 銚子無線局

伝えたい千葉の産業技術 100 選

登録番号	第062号
名称(型式等)	銚子無線電信局跡地
所在地	千葉県銚子市
竣工年	明治41(1908)年

選定理由

明治28(1895)年、イタリアの発明家マルコーニが電波を使った無線電信に成功すると、日本でも翌明治29(1896)年に、逓信省電気試験所に無線電信研究部が設置されます。明治39(1906)年には、同年設立された国際無線電信連合に参加し、明治41(1908)年に、銚子をはじめとする国内数か所に無線電信局が設置されました。銚子の無線電信局は、同年5月16日に海上郡本銚子町(現 銚子市川口町)の通称夫婦ヶ鼻^{めどがはな}に開設され、同月27日にはアメリカシアトル航路に就航中の丹後丸との間で、わが国初の海上無線通信に成功しました。その技術は、低周波火花式送信機(3kw)を使用したもので、アンテナの基幹柱は当初木柱でしたが、大正3(1915)年に高さ70mの鉄管柱に建て替えられています。

当時は、長波・中波・短波などの様々な周波数で主にモールス信号による無線通信でした。最も伝播する短波帯の無線通信局は、日本では銚子(コールサイン JCS)と長崎(同 JOS)がよく知られ、銚子では主に太平洋・大西洋上の船舶を対象に無線通信業務を担いました。

以後、日本や外国の大型船舶だけでなく、第一次世界大戦後に日本の委任統治領であった南洋群島などとの通信や、太平洋戦争中の太平洋での日本軍の通信拠点としても使用されました。戦後は、船舶だけでなく、海上保安庁、病院、気象庁、南極捕鯨船団、南極(JGX)などとの通信も担っています。

業務拡大に伴い昭和4(1929)年に受信所が海上郡高神村(現 銚子市小畑新町)に移転、昭和14(1939)年に送信所は海上郡椎柴村(現 銚子市野尻町)へそれぞれ移転しました。

しかし、人工衛星による衛星通信技術が進歩し、衛星通信回線の整備とともにモールス通信を行う船舶は減り続け、平成8(1996)年3月31日銚子無線電信局は閉所されました。現在夫婦ヶ鼻には「無線電信創業之地」の記念碑が「銚子無線電信局発祥の地」の説明板とともに建立されています。



銚子無線電信局発祥の地 記念碑



銚子市市民センターに展示されている当時の無線機

協力：千葉県銚子市役所観光商工課
銚子ジオパーク推進協議会事務局
銚子市市民センター

参考：銚子市市民センター展示「銚子無線創業から閉局までの足跡」
広報ちょうし 2017年8月号